

## 6日 金曜

### ヤコブ

- 4:1 あなたがたの間の戦いや争いは、どこから出て来るのでしょうか。ここから、すなわち、あなたがたのからだの中で戦う欲望から出て来るではありませんか。
- 4:2 あなたがたは、欲しても自分のものにならないと、人殺しをします。熱望しても手に入れることができないと、争ったり戦ったりします。自分のものにならないのは、あなたがたが求めないからです。
- 4:3 求めても得られないのは、自分の快樂のために使おうと、悪い動機で求めるからです。
- 4:4 節操のない者たち。世を愛することは神に敵対することだと分らないのですか。世の友になりたいと思う者はだれでも、自分を神の敵としているのです。
- 4:5 それとも、聖書は意味もなく語っていると思いませんか。「神は、私たちのうちに住まわせた御霊を、ねたむほどに慕っておられる。」
- 4:6 神は、さらに豊かな恵みを与えてくださる」と。それで、こう言われています。「神は高ぶる者には敵対し、へりくだった者には恵みを与える。」
- 4:7 ですから、神に従い、悪魔に対抗しなさい。そうすれば、悪魔はあなたがたから逃げ去ります。
- 4:8 神に近づきなさい。そうすれば、神はあなたがたに近づいてくださいます。罪人たち、手をきよめなさい。二心の者たち、心を清めなさい。
- 4:9 嘆きなさい。悲しみなさい。泣きなさい。あなたがたの笑いを悲しみに、喜びを憂いに変えなさい。
- 4:10 主の御前でへりくだりなさい。そうすれ



ば、主があなたがたを高く上げてくださいます。

戦いや争いの原因を、制度やルールなどの問題にするのが世の中では多いのですが、本当の問題は「からだの中で」すなわち心の中であって、「戦い」を挑む「欲望が原因」なのです。「あなたがた」とありますから、クリスチャンが含まれる人間関係でもそのようなことがあるのです。自分自身も含めて、人々の心の中の欲望を考慮する必要があります。

願って受けられないときは、「悪い動機で願う」からだとあります。人間は何か欲しくなると、何とかして手に入れよう実現しようと、そればかり考えますが、本当に考えるべきことは「動機」です。良い動機で願っているのでしょうか。それは本当に御心にかけているのでしょうか。

大切なことは、「主の御前でへりくだって」いるかどうかで、謙遜になって主の御心を求めているかどうかです。そうすれば「主が…高くしてくださいませ。」

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

